

千葉から 統計視察の旅

鯛の浦、保田の景勝を満喫し

多大の收穫を得

「百聞一見不如」古い言葉だが眞理だ。こゝに視察旅行の眞髓がある。先進縣千葉の名は吾々に絶えざる勵みを與へ又憧憬の的でもある。

本縣統計協會派遣の第五回事務視察團出發の日、五月十八日午前七時三十五分水戸驛發——前二回は雨天に災された由だつたが幸に好天氣、新緑の平野を渡る薫風一路、上野行準急行列車はヒタ走りに走つて常磐線を南へ南へ、かくて柏驛下車、猿島の江原氏を除く全員參集、人員點呼の後大月課長の訓辭代讀あり、一同勢揃ひと共に事務分擔を申渡さる。

視察の第一歩

電車に乗換へる、窓外は萬緑見渡す限り小麥に、桑に、増産國策の線に添つた千葉の平野を眺めつゝ船橋驛着、乗換へ

當の年配だがその眞剣さ、努力の跡もしのばれて敬服せざるを得ない。村長の挨拶あり、菓菓の馳走になり役場前で記念撮影をなし、再び車中の人となればもう午後四時過ぎであつた。

妙の浦を見る

午後四時五十分小湊驛着、徒歩で妙の浦へ向ふ。妙の浦は一名鯛の浦とも云ひ禁漁の鯛が見物で有名な所である小湊町書記田村氏の案内を受け遊覽船に乗る。

波青く底の底まで見ゆる海上約十丁船頭が船を叩き餌を撒けば、大鯛小鯛投げる餌につれて盛に波間に出没し、鯛の赤さと波の青さで正に一幅の生きた畫だ。壯觀無比十七人の同勢吾を忘れて舟の一方へ寄りそふので船は今にも沈まん許り。日は既に没し夕闇誕生寺の老杉に濃くなる頃晩鐘と共に靜に暮れる小湊を後にした。

時間のないため小湊山誕生寺を參拜しただけで國寶其の他探れば歴史的なものが數々あるを拜觀しなかつたのは残念だ

て午前十一時千葉驛に着く、先着の江原氏と合同す。今關千葉縣統計課長及野中屬がわざわざ「吾等を出迎へられ一同その好意を感謝す。

途中、トンネル故障の由にて豫定を変更して縣廳へは寄らずに長生郡太東村へ直行する事にした。プラットホームにて今關課長の挨拶を兼ねた視察に對する懇切なる注意あり、野中氏の案内で午前十一時二十二分發列車中にて統計雜誌及縣勢要覽を貰ひ千葉縣の概念を仕込む。午後一時三十一分太東驛着、徒歩にて田圃道を行く事五丁、太東村役場に到れば新しい瀟灑な洋館、見るからに清新の氣のする建物で、玄關から隅々迄キチンと整頓して居る。

二階會議室で高木統計主任の説明を聞き乍ら目を通せば各書類の連絡整備、調査員の訓練の巧さ——高木氏は助役で相

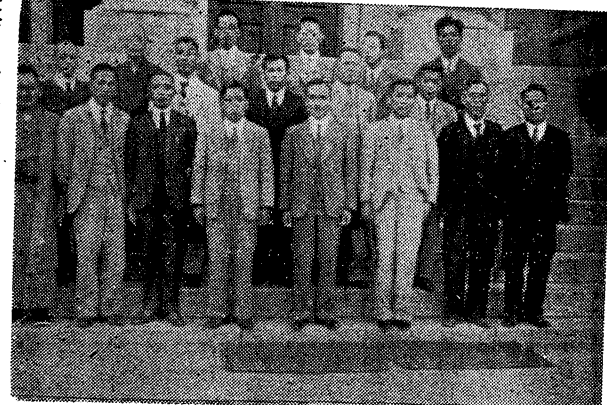
つた。

午後七時鴨川着、宿の番頭の案内で吉田屋旅館に入る。入浴して一同元氣回復、晚餐を認めながら親しい氣分が湧き、或は座談に又は漫談に楽しい數刻を送る。

明日の旅程を打合せて床に入る浪の音耳に入り僅か一夜の旅ながら旅愁ひしと胸を打つ。

整備された書類

- 【明説眞寫】 計課長中山・補主事江原・記書永富(ら右列前) 記書高島・記書塚大・記書關今・記書千葉(右中央) 記書品倉(ら右列後) 記書田豊・記書田星・記書野星・記書澤松・記書須河・記書崎田



五月十九日今日も幸に快晴だ。一同元氣一杯、早起きして六時四十分にはもう太海驛着、徒歩で五丁、海上更に二丁、名所仁右衛門島に上る。昔源頼朝公が戦破れて武運の拙きを啣つたと云ふ舊跡、日連上人が苦行十年、漸く「覺」を開いてあの強い精極的な宗教の第一聲を太平洋の怒濤に向つて獅子吼したと云ふ岩頭に立てば萬波渺茫、彼方に上人の姿を瞻に拜する

少憩後太海に引返し、南原驛に下車、バスで約二里、安房

郡丸村役場に至る。日本屋の平家建である。村長青木氏、統計主任御子神氏に迎へられて會議室に入る。直ちに揃へられた書類によつて何物か握らんとする一行は暫し無言、紙をメクル音、ペンを走らせる音のみ。

よく整つた書類、特に調査員製の耕地圖には皆々驚歎した御子神主任は永らく統計主任をして居ると聞か、この整備容易なものではあるまい。年月か、経験か、あらずその人の熱と努力あつてこそ、この完璧を得られたものと思ふ。吾々も起たざるべからずと非常に感奮させられた。

事業の計畫發展はすべて統計を基礎にしてこそ、そして吾々としてこれ以上の銃後の努めはない。

頭のない石佛

一同名産牛乳を馳走になり主任の案内で石堂觀世音に參拜皇軍の武運長久を祈願す。建物は保護建造物で觀世音は國寶である。寺より經文一卷宛を授けられ、御子神氏の好意を謝しつゝ再び車中の人となる。

午前十一時四十分保田驛着、徒歩で約二十分名所鋸山に登山した。さ程高くはないが房總の境に屹立し、右に東京灣、左に太平洋の怒濤を望み風光絶佳である。

山中至る所五百羅漢がある。之が鋸山で有名な石像で、奇妙に首の無いものが多い。誠に不思議なので尋ねれば願事あ

が先になり、先發の者が後の者に、兩國迄で迎ひを受けたり宿屋探しに苦心したり種々のナンセンスがあつた後、やつと午後七時過ぎ下谷根岸旅館へ疲れた身を運び一風呂浴びやつと人心ついた。

報告書を書く者、計算をする者、九時過ぎ夜の東京見物に出掛ける。

五月二十日午前八時内閣統計局に着く、待つ事暫し係の人の案内で見學する。數百の若い女性、赤、黄、綠色とり、傍目もふらず熱心に仕事をして居る。内閣統計局などと云へば顔面の殿しい人々がお揃ひの事と想像して居た吾々は少なからず驚いた。係の人々より部門的に種々説明を受け精巧な機械を見る。國勢調査のカード穿孔器、穿孔カード自動分數集計器の實驗を見、機械の精巧なのに驚き、一臺數萬圓也と聞いて目を丸くした。女護ヶ島の様な統計局を辭し玄關前で記念撮影をする。

意見の交換

午前十一時農林省着、刺を通すれば直ぐ統計課長室に通さる。課長近藤康男氏の挨拶あり、氏は農學博士で帝大の助教授を兼ねられて居る由、統計の改善に付町村主任としての意見を求められた。

茶を呑みつゝ白茶の豫想報告の時期の不適當、其の他種々

人がひそかにこの首を持つて行き、願事が叶へば返却供養する習慣があるとかで、こんなに首の無いのが多い所を見れば「思ふ様には行かぬ世の中」か。

山頂に立ちて展望しばし汗も引込みさあ一息と一氣に山を下り午後二時十分保田驛發列車の人となる。

統計報國に提携

千葉驛下車、徒歩で十分、縣廳に到る。屋上で千葉市を展望し、地下室で茶菓の馳走になり、今關統計課長から統計に關するお話を承る。莊車な口調で諄々と説かれ「最後に今回の視察が少しでも御役に立てば幸である。茨城が千葉を凌駕する様になつて戴き度い。千葉と茨城は共に手を携えて統計報國の爲め邁進しよう」と結ばれた。

正面玄關で記念撮影をなし、千葉驛に至り見送られた野中氏に御禮をいふ暇もなく電車で飛乗つた。

千葉を去るにあたり、想へば二日間多大なる好意と便宜を與へて下さつた今關課長及び太東村、丸村の方々、特に御多忙中萬事行届いた案内をして下さつた野中勘助氏に深甚なる謝意を表する次第である。

東京の視察

乗りつけぬ省線、ラッシュアワーの人波に揉まれ、後の者

申上げる。話しは調査員の勞多くして報いらるゝ事尠なき事その優遇問題に及ぶ。課長もそれについては種々考慮中との事だつた。課長は新任早々の由だが將來の抱負の片鱗もどうかはれて甚だ心強く感じた。一時間餘で辭し、農林省正面玄關前で一同茨城統計の發展を誓ひ、三日間視察に對し種々便宜を與へられた統計局、農林省、千葉縣の方々に蔭ながら御禮申上げて解散した。

最後に視察團一行の氏名を記し、健康と茨城統計のため一層奮闘せられん事をお願いして秃筆を擱く。(加納)

茨城縣屬	部	利男	行方郡行方村	河須崎	肇
統計主事補	山中	平守	稻敷郡根本村	大塚	貞之助
水戸市	星野	貞	新治郡美並村	松澤	乾
東茨城郡堅倉村	加納	萬吉	筑波郡北條町	飯竹	善吉
西茨城郡岩瀬町	倉品	六衛	眞壁郡川西村	宮田	彌一郎
那珂郡上野村	萩谷	轟之	結城郡石下町	山田	至寶
久慈郡久米村	富永	敬三郎	猿島郡櫻井村	江原	彌吉
多賀郡高岡村	豊田	武門	北相馬郡文間村	長島	乙夫
鹿島郡徳宿村	高崎	淳恵			

東郡第四部事務研究会

東茨城郡第四支部定期統計事務研究会は四月二十日山根村に開催、出席者は山根村蘭部書記、上中妻村藤地書記、中妻村木村書記、鯉淵村大島書記、渡里村鈴木書記、即ち支部員全員であつて左記事項につき熱心に研究する所があつた。

- 一、統計事務改善ニ關スル件
1 報告期限ノ勵行ノ方策如何
2 調査員訓練會開催ノ件
3 春季調査施行ニ關スル件
二、統計思想普及徹底ニ關スル件
三、支部ノ連絡活動ニ關スル件
四、統計調査員ノ優遇ニ關スル件

那珂郡東部事務研究会

宮(宇野書記(玉川)岡崎書記(鹽田)森戸書記(野口)大森書記(大賀)根本書記(山方)横山書記(長倉)田澤書記(八里)佐藤書記(藤郷)橋本書記(小瀬)平松書記(瓜連)

久慈郡中部統計事務所 研究會

久慈郡中部統計事務所研究會は六月二十三日、二十四日の兩日金郷村役場に開催、縣より高島屬が出席した。第一日午前十時須藤金郷村長の開催挨拶あり、續いて高島屬より昭和十四年臨時國勢調査に關し詳細説明あり、質疑に答へ、第二日も熱心に研究した。出席者は左の通り

須藤村長、木村助役、荒井書記、櫻井調査員、石川調査員、生天目調査員(以上金郷)鈴木書記、會澤書記(金砂)大森書記(世喜)鈴木書記、後藤書記(梁和田)木下書記(天下野)井上書記(高倉)鶴田書記(中里)助川書記(賀美)小田部書記(小里)

那珂郡東部統計事務所研究會では五月十五日佐野村役場に定期研究會を開催五月より六月迄の各種豫想報告及び春季調査の状況等に就て熱心に研究する所あり、尙ほ臨時國勢調査に就ても打合を行ひ午後一時散會した。出席者左の通り

(縣)小島屬(佐野)清水村長、照沼書記、(那珂湊)高田書記(平磯)磯崎書記、(前渡)澤島書記、(中野)安書記、(村松)大内書記、(勝田)谷田部書記、(川田)小澤書記(國田)高安書記、(石神)根本書記(菅谷)平野書記(五喜)車田書記(柳河)鈴木書記(神崎)川又書記(戸田)寺門書記(芳野)寺門書記(木崎)中崎書記

那珂郡西部統計事務所研究會

那珂郡西部統計事務所研究會は去る五月二十九、三十の兩日大場村小學校に開催、縣より高島屬が出席した。初日には優良統計調査員を各町村隔年毎に表彰する事になつてゐる爲本年は左記優良統計調査員を表彰、西部會長代理宇留野大場村長より表彰狀並記念品を傳達した。

久慈郡南部統計事務所 研究會

久慈郡南部統計事務所研究會は去る六月二十八日譽田尋常高等小學校に開催縣より高島屬が出席した。午前十時開會、根本譽田村長の昭和十四年臨時國勢調査に關する打合せの挨拶あり、續いて高島屬より記載事項に付詳細説明をなし質疑應答をなしたる後散會した出席者左の如し

根本村長、榊書記(譽田)宇佐美助役、五來書記(久慈)山崎書記(佐野)和田書記(山田)富永書記(久米)助川書記(郡戸)片岡書記(東小澤)井上書記(坂本)里見書記(佐竹)田所書記(磯初)高野書記(西小澤)岡田書記(幸久)江幡書記(世矢)滑川書記(太田)鈴木書記(河内)

出島部會國勢調査 事務協議會

新治郡出島部會美並村外五ヶ村の國勢調査事務協議會は六月二十六日午前八時より美並村小學校に於て開催、縣統計課より菊池屬が出席した。大槻村

月二十九、三十の兩日大場村小學校に開催、縣より高島屬が出席した。初日には優良統計調査員を各町村隔年毎に表彰する事になつてゐる爲本年は左記優良統計調査員を表彰、西部會長代理宇留野大場村長より表彰狀並記念品を傳達した。

大場村統計調査員 三村 正
野口村統計調査員 石崎 義雄
長倉村統計調査員 古田土 義彦
八里村統計調査員 桑名 廣
檜澤村統計調査員 相田 清太郎
大賀村統計調査員 掛札 庸史
玉川村統計調査員 小磯 鎮三
表彰式修了後昭和十三年度歳入歳出決算を満場一致決議し、第二日は八月一日施行される臨時國勢調査に付打合會を開催、質疑應答をなし散會した。出席者は左の通り
宇留野村長(大場)川澄助役(大場)三村收入役(大場)三村書記(大場)小林書記(大場)四倉書記(大場)片岡書記(大場)中村書記(上野)寺門書記(勢)茅根書記(大

長の挨拶に續て菊池屬より國勢調査施行の趣旨を述べたる後調査要綱並に申告書記入心得等に付詳細説明の後質疑應答を行ひ閉會した。尙出席者左の通りである。

美並村(大槻)村長、古川助役、外係員全員、各申告義務者五十名)下大津村(松澤書記)牛渡村(瀧口書記)佐賀村(貝塚助役、折本書記)安飾村(小室書記)志土庫村(沼野書記)

猿島郡南部國勢調査 事務打合會

猿島郡南部統計事務所研究會に於ける國勢調査事務打合會は六月十二日猿島郡長須村役場に於て開催、出席者左の如し

△縣、山中主事補、△町村、花島書記、眞中書記(七重村)羽富書記(神大實村)岡田書記(飯島村)南書記(七郷村)渡邊書記、小林書記(弓馬田村)風見書記、富山書記(岩井町)金子助役、立入書記(香掛村)片倉村長、藤井書記、後藤書記、後藤調査員、内田調査員(長須村)



短歌

丹 四郎 選

『事變の歌』『夏雜詠』

入賞ナシ

夕立の止みし夕べのさやけさを閑人のごと木下歩めり
 人里を離かりてあれば種播きつつ妹も聞きけり山子規
 新治郡藤澤村 失 名

麥刈りて汗を拭へる妻の顔白きがほどは赤くなりたり
 桑の木皮むきつつ居りし童べは何處ゆきしか庭に聲なし
 新治郡高濱町 木村 常夫

さくさくと草刈る鎌の音のみが涼しく聞ゆ朝露の中
 水戸市袴塚町 大高 静香

むし暑く寝がてぬ窓を開ければ月の明りに庭木をよげり
 鹿島郡中野村 鷹 田 曉香

夕ぐれの野にひく影も長々と草刈る娘等は歸り來るなり
 稻敷郡生板村 關 野 貴

吾友の護國の御靈迎ふなり勇み征きつるこの驛にして
 那珂郡中野村 麥 野 香市

陸軍機眞上を飛ばば子供達大いなる響きに驚きさわぐ

涼しさや足投げ出して椽の先
 風鈴に風すさまじき俄か雨
 同 同 人

遠雷に陸稻畑の除草かな
 新治郡高濱町 木村 桑柏木

野歸りの妻疲れたり胡瓜もみ
 同 同 人

大平洋黒潮遠く泳きけり
 行方郡武田村 境 谿水

蟬の聲耳ざはりなる晝寝かな
 同 同 人

抱かれゆく兒のやさしさや夏帽子
 稻敷郡君賀村 小松澤 霞翠

瑩ついで流るゝ闇の深さ哉
 同 同 人

◇本月秀逸なし

次回俳句募集

題……『夏季雜』

- ◇一人十句限り
- ◇締切 九月五日厳守
- ◇秀逸 粗賞を呈す

故國より届きし手紙開きつつ嬉し涙にむせぶつはもの
 行方郡武田村 境 勇

次回課題

『事變の歌』『初秋雜詠』



俳句

前田 猶春 選

いそがしく牛も尾をふる
 田植かな
 鹿島郡中野村 高田 矢洲四

蟬鳴くや田草とる娘の萱の笠
 新治郡瓦會村 野村 俊夫

炎天や人來ればよる樹下かけ
 行方郡大和村 横山 五郎

草とりの笠揃へたる銃後かな
 久慈郡諸澤 細貝 春峰

秣刈り朝の山露あびてゆく
 水戸市袴塚 大高 静香



柳川

山中 緋郎 選

信號の旗あつちでも旗を振り
 水戸市 大高 静香

旗の波から萬歳湧きあがり
 行方郡武田村 鳥次 とり坊

出征旗小さい手にて握りしめ
 新治郡高濱町 木村 桑柏坊

座談會國旗へみんなかしまり
 東茨城郡上大野村 山内 省吾

チンドン屋弔旗と知つて素通りし
 那珂郡柳河村 青柳 春男

贅休み日の丸を畫く好い話
 眞壁郡川西村 佐藤 紫水

占領地もう日の丸で迎へられ
 行方郡武田村 境 谿水

日の丸はポケットにある決死隊
 那珂郡中野村 川又 静一

次號課題 『月』

- 締切 八月三十一日
- 宛名 茨城縣廳内統計協會

【編輯後記】

田も畑も凄じいほどの收穫を豫想され、而も各生産物とも相場がよいと聞いては、直接農事にたづさはらぬ我々まで何ともいへぬ心よさを感じさせられる。昨年の慘澹たる水害を思ひ起し感慨に堪へぬと同時に、初秋の風害もなく済む様に祈つて止まな

☆

農林省統計官長畑健二氏の蠶糸統計論は一年の長きに亘つて本誌に連載され諸君各位にも非常に裨益する所があつたと思ふが惜しい事には本誌を以つて終結を見た。長畑氏が多年の蘊蓄を傾けた御執筆の勞に對しては厚く御禮を申し上げ、將來とも本誌及び讀者に對する御指導の程を御願ひする次第である。

☆

九月號からは些か趣を變へて縣の統計細則に關する解説の様なものを掲載したいと準備を進めてゐる。新しく統計事務にたづさはる人には何よりの参考資料となるもの

又古くから實地調査に經驗を重ねてゐる者にとつても絶好の伴侶となる事を信じて疑はぬ。

☆

酷暑の候、臨時國勢調査を始め非常時國策の基調をなす統計事務に働く諸君の勞には自ら頭の下るを禁じ得ない。健康に留意し、益々統後奉公に奮闘せられん事を切望して止まぬ。

—加藤敬愛—

茨城統計と

廣告の效果

『茨城統計』は縣下二百七十八ヶ市町村及び各市町村の統計調査員約四千名は勿論縣下各種團體、會社工場等に配付し、中央各省、道府縣へも漏れなく配付するものにて廣告の效果偉大なるものがあると信じます。

◆本誌の廣告料金は左の通りです

特別 一頁(表紙表裏) 金拾五圓
半頁(同) 金八圓

普通 一頁 金四圓
半頁 金貳圓
四分ノ一 金貳圓

▼同一廣告を引續き二回以上のときは二割の割引をします。
▼廣告に寫眞挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます
▼廣告料は前納に願ひます。

茨城縣廳内

茨城縣統計協會

昭和十四年七月十三日印刷
昭和十四年七月十五日發行

(隔月一回十五日發行)

一部金十錢

水戸市北三ノ丸茨城縣廳
茨城縣統計協會内

發行兼編輯 郡 司 常 成
兼印刷人

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二
印刷所 柴 印 刷 所

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内

發行所 茨城縣統計協會